

2020年11月27日

『国民の声』を聴く会 資料

多文化ソーシャルワークに関する取組

公益社団法人 日本社会福祉士会

多文化ソーシャルワークに関する取組

1. 研修プログラムの開発・実施
2. アセスメントシートの開発
3. 調査研究、書籍、ガイドブックの発行

1. 研修プログラムの開発・実施

○滞日外国人ソーシャルワーク研修
(2006～2015年度)

※ 2013年度に、認定社会福祉士制度の
認証研修として位置づけられました。



都道府県士会に移管
(2015年度)

○現在は、神奈川県士会、兵庫県士会で開催

社会福祉士資格取得後のキャリア形成と養成体系

■ 認定社会福祉士制度における実践力育成の3つの柱

- ① 実務経験目標...実務において経験すべき事項を明示。実務経験を標準化し、実践力を向上。
- ② スーパービジョン...定期的なSVを受け実践力を育成【認定】。SVを行い指導力・説明力を向上【認定上級】
- ③ 研修...養成課程では学んでいない専門的な知識等を習得【認定】
実践課題に応じた知識習得・実践研究等を通じ、専門的知識の統合・運用を可能に【認定上級】

↑
実務10年以上

実務5年以上

役割・活動

【地域に広がる活動】

- 地域における権利擁護、機関間連携などのシステムづくり、制度の隙間にある課題に対応するサービスの開発
- 組織における苦情解決、サービス管理などの仕組みづくり
- 実践の指導、検証、根拠の蓄積

【所属組織を中心とした活動】

- 複雑なケースへの対応
- 職種間連携のキーパーソン
- 相談援助部門のリーダー
- 職場配属

多文化SWの研修は、地域社会・多文化分野に位置づけられている



実績（2020年4月1日現在）

(1) 認定社会福祉士登録者数

登録分野	高齢分野	障害分野	児童・家庭	医療	地域社会・多文化	合計
登録者数	356名	132名	61名	275名	128名	952名

多文化SWについては、
地域社会・多文化分野
に位置づけられている。

(2) 研修認証科目数

認証申請分野	認定社会福祉士取得向け科目						地域社会・多文化	認定上級取得向け科目
	共通専門	高齢	障害	児童・家庭	医療			
認証科目数(累計)	82科目	51科目	27科目	32科目	28科目	56科目	4科目	

合計 280科目

2. アセスメントシートの開発

○生活支援アセスメントシート(領域別シート)

ソーシャルワークの実践現場に従事する社会福祉士が、日常業務の中で、福祉的課題をかかえる外国にルーツを持つ方からの相談に活用できるよう「領域別シート(滞日外国人支援)」を開発しています。

→ 本会HPからダウンロードできます

※ 主なアセスメント項目

「国籍・地域」「入国年月日」「入国の目的・経緯」「在留資格・期間・期限」「就労資格」「在留カード」「有効な旅券」「民族・宗教・母語・その他の言語」「日本語運用レベル」「食事」「婚姻関係」「家族関係」「子供の就学状況」「本国での主な職業」「日本における支援者・支援機関」「難民認定の申請状況」「大使館への連絡可否」「帰国の意思・可能性」等

3. 調査研究、書籍・ガイドブックの発行

○「滞日外国人支援の実践事例から学ぶ
多文化ソーシャルワーク」の発行(中央法規、2012)



○(社会福祉士等における外国人支援業務の実情と
課題に関するアンケート調査)の実施(2018年)



○「滞日外国人支援 基礎力習得のための
ガイドブック」の発行(2019年)

- ガイドブック(冊子・PDFデータ)を配布
- ガイドブック活用講座を、e-learningで無料配信。



赤い羽根福祉基金

「滞日外国人支援に携わる実務者(社会福祉士)の滞日外国人支援
基礎力習得のためのガイドブック作成及び研修プログラムの開発事業」